

⑫ 公開特許公報(A) 平1-190622

⑤ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成1年(1989)7月31日

A 61 K 7/075
C 11 D 3/127430-4C
7614-4H

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全4頁)

⑥ 発明の名称 新洗髪料

⑦ 特 願 昭63-12717

⑧ 出 願 昭63(1988)1月25日

⑨ 発 明 者 山 形 公 東京都江戸川区東葛西7-25-5

⑩ 出 願 人 日軽ニュービジネス株 東京都港区三田3-13-12
式会社⑪ 出 願 人 株式会社ゲラン開発研 東京都江戸川区東葛西7-25-5
究所

明 細 書

1. 発明の名称 新洗髪料

2. 特許請求の範囲

1) 本発明は、粘土鉱物類のうちとくにベントナイトより抽出精製して得られたソジウム・モンモリロナイトを頭髪洗浄用シャンプーおよびトリートメントの組成として使用するもので、さらに、尿素、dl-ピロリドンカルボン酸及びdl-ピロリドンカルボン酸ソーダを併用し、ソジウム・モンモリロナイトの複合体を組成のなかに生成させ湿潤作用を賦与せしめ、頭髪、のほか頭皮、掌指 にも湿潤効果をあたえることを特徴とする。

2) 本発明は、損傷毛にたいする回復の措置ならびに、頭皮のシャンプーによる極端な脱脂の回復のため、その組成に油性分として植物油脂ならびにロウとしてホホバ油、アボカド油、アルモンド油、オリーブ油、グレープシード油、サフラワー油、サザンカ油、ツバキ油、シアバター、動物油脂ロウとしてミツロウ、ラノリン

、鉱物性ロウとして流動パラフィン、白色パラフィン、等を単独または混合して使用することを特徴とする。

3) シャンプーやコールドパーマ、ヘアーダイ等による頭髪の損傷を回復し、毛髪保護のため、トリートメントにはキチン誘導体の高分子多糖体、ケラチン誘導体ポリペプチド類、網織維由来のペプチド及びポリペプチド類を夫々のソジウム・モンモリロナイト複合体を組成のなかに生成させ、あるいは添加し、夫々を単独にまたは混合して使用することを特徴とする。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、シャンプー効果を拡張発展させるものであり、粘土鉱物とくにソジウムモンモリロナイトおよびその複合体を配合して洗浄の効果を増大し、複合体の特性を発揮させ頭髪の補修、調整をおこない、帯電防止効果を付与してみずからリンス効果を発揮し、シャンプーのあと

の、いわゆるリンス操作を要とし、頭髪の柔軟と滑性をももたらし、さらに、洗髪作業者の手荒れをも防止する新規頭髪洗淨化粧料に関する。

(従来技術)

頭髪の洗淨として市場には種々のシャンプー類リンス類、トリートメント類が見られる。シャンプーについては、表面活性剤としては、アルキルベンゼンスルホン酸塩、アルキル酸エステル塩、ポリオキシエチレンアルキル硫酸エステル塩、両性界面活性剤、塩化ラウリルジメチルベンジルアンモニウム、N-アシルグルタミン酸ナトリウム、等がある。

いずれも、界面活性剤のもつ界面活性作用により頭皮および頭髪の汚れである、頭皮からの分泌物やフケ、外部から付着した汚れすなわち水に不溶の固形物、水に可溶の物質、水に不溶の油性物質、また使用した整髪料の付着したものを洗淨するものである。

これらの表面活性剤は強い洗淨力のために頭皮

は、強く脱脂され光沢としなやかでない、乾燥状態になりやすく、頭皮も同様である。

さらに、美容院や理髪店の作業者はシャンプー作業を繰返し、手や指の皮膚が脱脂されて痛められる。

さらに、アレルギー体質には、シャンプー後にリンスを行うとき、リンスを完全に頭髪から洗淨せず、頭髪へのリンス効果を与えようとするため、頭皮、特に、頭髪の先端から、したたり落ちるリンスは首すじの皮膚に残り、アトピー性皮膚炎等を惹起することがある。

(発明が解決しようとする問題点)

すくなくとも、表面活性剤の使用量を減少せしめ、洗淨作用による頭髪、頭皮の状態を改善しリンスをせずに、清潔で心地よい健康な頭髪、頭皮を得ようとする。

しかも、洗髪作業者の手や指の障害をも守ろうとするもの。

さらに、ソジウムモンモリロナイトとその複合体を処方して、効果的ヘアトリートメントを

提供しようとする。

(問題点を解決する方法)

古くから、粘土を使用するクレンジングの方法は伝えられ、使用された。本発明は、粘土のうちのベントナイトより抽出されたソジウム・モンモリロナイトをシャンプー処方に採用することを特徴とするものである。

ソジウム・モンモリロナイトは超微粒子であり水に膨潤して、懸濁し希薄濃度では、ブラウン運動をして、沈降することがない。その粒子形状は扁平不規則であり、紙着しやすく、滑性をもつ。またゾル濃度が高くなれば、可塑流動をする。

シャンプーにおいては、豊富な粘着性のあるち密な泡立ちが要求される。これは、シャンプーが顔面に垂れ流ないで頭部に留まって豊富な泡によつて頭髪を包み洗淨力を発揮させるためである。

ソジウム・モンモリロナイトの水膨潤ゾルはグリコール基、カルボキシメチル基、と複合して

増粘し、チクソトロピーを示す。すなわち、シャンプーするときは、容易に流動し、動かすことが止まれば粘度は増加するので、顔面に流れ落ちないのである。

さらに、帯電防止効果をもつことは、織布前工程の経糸調材にソジウム・モンモリロナイトが添加されると織布工程の糸の摩擦による帯電を容易に防ぐことができることから、シャンプー効果の利点である。また、ソジウム・モンモリロナイトが滑性をもつことは、その乾燥皮膜は、脂感のある潤滑性を示し、これらは、樹どうりの快適さを、獲得することに寄与するものである。

シャンプーは表面活性剤による強い洗淨力が主体であるが、その泡立ち、すなわちその泡が毛根の微細な細隙の汚れをつつみとるとするが、ソジウム・モンモリロナイトの粒径はサブ・ミクロンであり、微細な泡よりも、さらに微小粒子である。しかも、化学的特性としては、アミン類とは容易に結合することは、頭皮の老廃物、

毛根からの脂等の汚染と結合し、容易に流れさり、充分な洗浄の効果をもたらす。

これらの特性は、ことごとくシャンプー効果を改善し、新規洗髪料としてリンスを施し、頭髪改善効果をもつものであり、さらに、トリートメント効果をもつ新規の洗髪料を提供するものである。

美容院、理髪店における従事者は連日客の洗髪作業を行う、このため、手及び指はシャンプー中の表面活性剤のため、極端に脱脂され、手荒れに悩まされてる。

本発明による処方のシャンプーは、特許請求範囲第5項に示したように、ソジウム・モンモリロナイト・尿素複合体と第2項のピロリドンカルボン酸ソーダは自然保湿因子であり、かつ、第3項の油性分は、手の皮膚の保護のための必須の成分である。

第4項にはトリートメント効果を発揮すべく、キチン誘導体の高分子多鎖体、ケラチン誘導体ポリペプチド類、絹繊維由来のペプチド、ポ

リペプチド類をナトリウム・モンモリロナイトと複合体として、ヘアトリートメントの処方として使用することは極めて効果的である。頭髪の組成は、硬タンパク質であるケラチンからなる。ケラチンの化学的構造、分子配列は、アミノ酸のポリペプチド結合であり、長軸方向に配列し、ペプチドの側鎖によって結束されている。頭髪は水で濡らすと水素結合が切れ乾燥すると再結合する。頭髪を構成するアミノ酸は、シスチンを主としグルタミン酸、ロイシン、アルギニン、セリン、スレオニン、グリシン、等 18 種であるが、さきに述べたキチン誘導体の多鎖類、絹由来のフィブロイン、さらには、ケラチン誘導体のポリペプチドなどは、いずれもソジウム・モンモリロナイトと容易に結合し複合体をつくり、それぞれ、頭髪の保護、修復、また他には見られぬ帯電防止等の効果を発揮することができる。とくに、コールドパーマ液、やヘアダイ液等によって損傷を受けた頭髪の修復には、トリートメント効果をもたらす

ための好材料であつて、本発明の主軸である。

(実施例 1.)

シャンプー

特に、帯電防止効果を求めて、リンス処理を排し、頭髪および頭皮にたいして NMF 効果をもたらす、さらに、尿素ソジウム・モンモリロナイト複合体によつて、頭皮さらには、洗髪作業者の掌指の荒れまで改善しようとするもの。

ソジウム・モンモリロナイト	4 ~ 8
尿 素	2 ~ 5
1,3-ブチレングリコール	2 ~ 3
ピロリドンカルボン酸	0.3 ~ 0.5
ピロリドンカルボン酸ソーダ液	2 ~ 4
ホホバ油	0.5 ~ 0.8
天然ビタミンE	0.1 ~ 0.3
表面活性剤剤本	20 ~ 32
精製水	69 ~ 48
本表面活性剤は	
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	

ソジウムコイルグルタメート

それぞれを配合量の範囲で混合して処方される。

(実施例 2.)

ヘアトリートメント

コールドパーマメント、ヘアダイ、ヘアブリーチ等によつて頭髪は損傷を受け、洗髪によつて、頭皮まで脱脂される。とくに欧米人はヘアダイを多用するので、頭髪の損傷が大である。また、空気の湿度も低いので帯電しやすいため、特に本発明の効果を期待することができる。

ソジウム・モンモリロナイト	5.0 ~ 7.0
尿 素	2.5 ~ 4.5
1,3-ブチレングリコール	2.5 ~ 4.0
流動パラフィン	4.0 ~ 8.0
オクタデカノール	2.0 ~ 3.0
ピロリドンカルボン酸	0.2 ~ 0.4
ピロリドンカルボン酸ソーダ液	1.0 ~ 2.0
ベヘニールアルコール	1.5 ~ 3.0

ホホバ油	0.5 ~ 1.5
天然ビタミンE	0.1 ~ 0.3
キチンリキッド	3.0 ~ 5.0
植物抽出液 EGX-232	0.1 ~ 0.3
絹フィブロイン由来ペプチド液	0.2 ~ 0.5
精製水	87 ~ 82

出願人 日軽ニュービジネス株式会社
代表取締役 今 沢 茂 雄

出願人 株式会社 グラン開発研究所
代表取締役 手 塚 昭